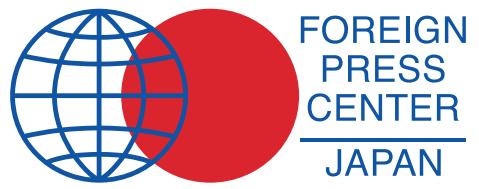
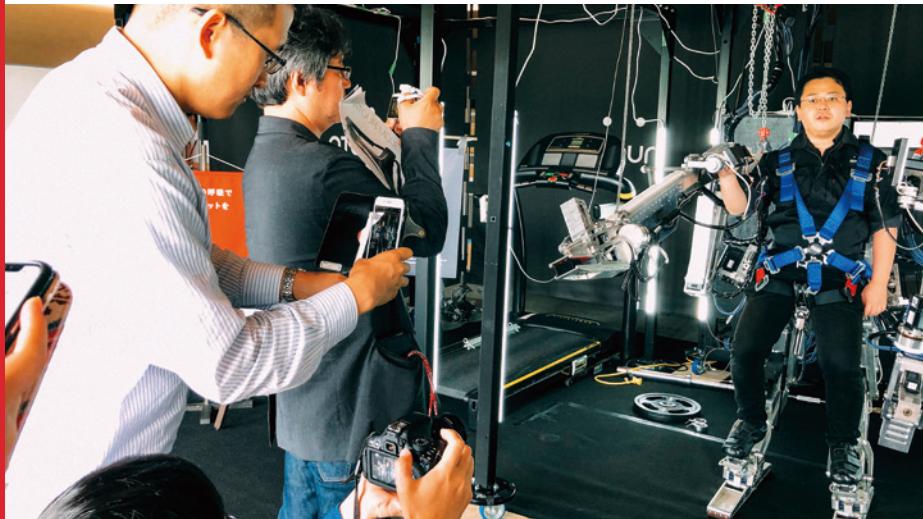


# FOREIGN PRESS CENTER JAPAN



JAPANESE / 日本語





# 01 プレス・ブリーフィング事業



日本のニュースや話題の背景について理解を深め、多様で正確な報道につなげてもらうため、閣僚を含む政府関係者や有識者によるブリーフィング(講演)を行っています。テーマは、政治、経済、外交、環境・エネルギー、科学技術、社会、文化など多岐にわたります。主に在日外国メディア関係者を対象に月4回程度実施し、平均30名程度が参加、動画記録はFPCJのホームページで公開しています。コロナ禍を機に、オンライン・ブリーフィングのライブ配信を始めました。

ブリーフィングの動画は、FPCJのホームページおよびYoutubeで公開しています。

プレスブリーフィング 報告

検索

ブリーフィング参加者の声

## 専門家とのネットワーク構築にも役立っています

FPCJが主催するブリーフィングは、非常にタイムリーで、日本が今直面している問題に関連したテーマを取り上げており、政治や経済はもちろん、高齢化などの社会問題やテクノロジーといった幅広い話題を網羅しています。外国特派員は、政治家や政府関係者に必ずしもアクセスできるとは限りません。そのためFPCJが主催するブリーフィングは、最新情報を得られるだけではなく、背景にある様々な情報の入手や、ブリーファーとして招かれた専門家とのネットワーク作りなどにも大変役立っています。

ザ・ストレーツ・タイムズ紙  
(シンガポール)  
ウォルター・シム 東京特派員

これまでのプレス・ブリーフィングの事例

## 皇位継承儀式をメディアはどのように伝えるのか

宮代 栄一 朝日新聞社編集委員



約200年ぶりの天皇の退位、そして30年ぶりの皇位継承儀式に合わせ、皇室に関する執筆記事も多い朝日新聞社の宮代編集委員(史学博士)を、4回にわたりお招きしました。宮代氏は、「元号」の意味や歴史、決定プロセス、社会的影響、また皇位継承儀式の流れと役割、一連の儀式をメディアはどのように伝えるのか、そして新たな令和の時代に国民は新天皇をどのように受けとめているのかなど、外国特派員の数多くの疑問に答えました。

## 人生100年時代の高齢者の医療、介護、雇用—課題と対策

翁 百合 日本総合研究所理事長



全人口に占める65歳以上の割合が2018年には28.1%、75歳以上が14.2%と「人生100年時代」を迎えたとも言われる日本。高齢者の雇用のあり方、医療や介護など社会保障制度面での対応も喫緊の課題となる中、どのような対策が必要か。金融システムや社会保障制度などが専門で、政府の医療介護分野の有識者会合の会長も務める翁理事長が、医療保険制度持続のために何をすべきかなどについて説明しました。

## 「空飛ぶクルマ」の開発

福澤 知浩 株式会社 SkyDrive 代表取締役



次世代モビリティとして世界的に注目を集め、日本でも実現に向けた動きが本格化している「空飛ぶクルマ」。政府が立ち上げた「空の移動革命に向けた官民協議会」のメンバーで、「空飛ぶクルマ」の開発で日本をリードするベンチャー企業SkyDriveの福澤代表取締役は、「空飛ぶクルマ」の開発状況や実用化に向けたスケジュール、解決すべき課題、様々な分野での活用の可能性などについて、模型を示しながら語りました。

# 02 日本各地の旬なニュースを取材 プレスツアー事業



在日外国メディアが日本各地を訪れ、地域の特色ある産業や社会的課題への取り組み、先端技術や文化・伝統工芸などを取材する機会を提供しています。主に東京を拠点にしている外国メディアの記者たちにとって、地方を取材する貴重な機会となっています。年に10~15回程度実施し、毎回平均10名程度の記者が参加しています。

実際のプレスツアーの情報はFPCJのホームページでご覧いただけます。

プレスツアー 案内

検索

ツアーパートナーの声

## 自分で思いつかない取材テーマと出会える

FPCJのツアーはジャーナリストのニーズをよく把握して構成されており、自分自身では思いつかなかったようなテーマに、関心を向けられることがあります。日本の地方の話題には全般的に関心がありますが、特にIターンやUターン、地域産業（課題に取り組み成功した事例など）、天然資源、若者や高齢者、女性の役割などに注目しています。地域としては、九州や四国、小さな離島を取材したいです。



フリー・ジャーナリスト  
(ドイツ・オーストリア・イスの新聞・雑誌などに執筆)  
ソニア・ブランシュケ 記者

これまでのプレスツアーの事例

## 特産品や伝統産業を発展させたブランディング

愛媛プレスツアー



愛媛県を訪れ、一次産業や伝統工芸に独創的なアイデアと技術を融合させた先進的な取り組みを取材しました。魚の養殖技術と特産品のみかんを組み合わせ爽やかな風味を醸す「みかんフィッシュ」、瀬戸内海に浮かぶ岩城島（いわぎじま）の「青いレモン」栽培とブランド商品の開発、伝統の手しき和紙に金属加工技術を施してオンラインの商品を生み出す企業などを取材したほか、県の農政や少子高齢化対策について、知事に聞きました。

【写真】岩城島にてレモン農家を取材する記者

## 地域の特色を海外へ発信

宮崎県プレスツアー



「武道の聖地」「日本一の焼酎産地」「日本のはじまりを物語る神話の舞台」という宮崎県の3つの魅力をテーマに実施しました。刀剣職人が火花を散らしながら鋼を打つ鍛錬の様子や、剣道防具の職人、子どもたちが剣道の稽古に励む姿、県が推進する武道ツーリズムを取材したほか、伝統的な焼酎造りを守る小規模な酒蔵と生産量日本一の焼酎メーカーの両方でインタビューや撮影をしました。また、神話の舞台とされている神社も訪れました。

【写真】刀剣職人の工房で鍛錬の様子を撮影する記者

## 農の生きるまち

東京・練馬区プレスツアー



大都市にありながら市街地と農地が融合した練馬区を訪れ、都市農業をテーマに、その特色や魅力、農業と都市生活者の新たな関係について取材しました。ブルーベリー観光農園、季節に応じた少量多品種を栽培する若手農家、練馬野菜を使った地元のレストラン、手づくり味噌を製造する都内で唯一の味噌蔵、野菜販売ロッカー、学校給食や畑での校外授業に協力する農園を取材したほか、練馬区長へのインタビューも行いました。

【写真】ブルーベリー農家を取材する記者一行

# 03 世界各地のメディアの第一線で活躍する記者が来日 外国メディア招聘事業



できるだけ多くの国々の多様なメディアに、日本を取材し報道してもらいたい。そのため実施しているのが、報道の第一線で活躍する記者を日本に招き、様々なテーマで取材する機会を提供する事業です。FPCJが主催するものと、他の団体による事業の企画・運営面をサポートするものがあります。それぞれの記者の関心や日本の最新事情などを踏まえて、取材日程の提案・調整、通訳手配のほか、安全安心な滞在とスムーズな取材のための様々な準備を行います。また、滞在中は必要に応じてFPCJの職員が取材に同行し、記者の要望に迅速に対応しています。

招聘記者の声

## 日本取材には「必須」のプログラム

FPCJの招聘事業は、とても効果的で友好的で有意義な、私の希望をすべて満たしてくれるものでした。このプログラムのおかげで、私は日本の人口高齢化という重要なテーマについて、様々な観点から取材することができました。高齢者と空き家の割合が最も高い地域の一つである高知県を訪れる機会もありました。日本の地方の現実を理解するのにこれ以上のものはない、「必須」のプログラムです。



ル・ソレイユ紙  
ジャン・シモン・ガニエ記者

これまでの外国メディア招聘事業の事例

## 人口高齢化に伴う課題 都市と地方の両面から取材

先進国記者招聘 カナダ／「ル・ソレイユ(Le Soleil)」紙／ジャン・シモン・ガニエ記者



ケベック州の仏語主要紙「ル・ソレイユ」で政治、経済、外交問題などをカバーするガニエ記者が来日。「人口高齢化に伴う様々な課題」をテーマに5日間取材を行いました。都内では関係省庁や有識者、介護施設におけるロボットの活用事例を取材。その後、「離島を除いて日本一人口が少ない村」として知られる高知県大川村を訪れ、村長や他県からの移住者にインタビューし、さらに隣接する土佐町で過疎化や空き家問題についても取材しました。

【写真】大川村の集落活動センターで移住者に話を聞く記者

## 環境や防災の課題解決へ 日本の先進的な取り組みを知る

太平洋・カリブ記者招待 パラオ、トンガ、セントクリストファー・ネイビス、ジャマイカ



国際交流推進協会(APIC)主催事業で、太平洋島嶼国とカリブ地域から記者が来日し、各国が抱える環境、防災、減災といった課題の解決に役立つ日本の先進的な取り組みを12日間にわたり取材しました。東京スカイツリーの制震技術、横浜市の廃棄物処理などを取材した後、熊本県を訪れ、震災からの復興状況、被災者支援、災害への備えを取材したほか、地元新聞社から災害時に果たすべきメディアの役割について聞きました。また、久米島では海洋深層水を活用した産業振興について取材しました。

【写真】沖縄県海洋深層水研究所で海洋深層水の温度を確認する記者一行

## 日本の多文化共生の今、移住者の送り出しと受け入れの在り方を考える

東南アジア記者招聘 カンボジア、フィリピン、マレーシア、インドネシア、ベトナム、ミャンマー



笹川平和財団主催事業で、東南アジアの国々から記者を招き、人の移動・多文化共生の現在をテーマに14日間取材しました。都内では、外国人労働者の受け入れ状況に関する政府や民間団体の説明を受けたほか、株式会社ローソンの外国人スタッフ採用方法や同社店舗で働くスタッフを取材しました。関西では、神戸の多文化・多言語放送局や外国人支援センター、介護実習生が働く大阪の高齢者介護施設などを訪問しました。さらに茨城県では、農園で働く技能実習生を取材しました。

【写真】神戸新聞社の編集フロアで説明を受ける記者一行

# 04 取材活動をきめ細かくサポート リクエストに応じた取材協力



外国メディアが日本で取材を行う時、多くの記者が直面するのが、言葉の壁や文化の違い。テーマは決まっていても、取材先や連絡先が見つからない、アポイントを取るのが難しい…などの声が日々寄せられています。困った時の“駆け込み寺”であるFPCJは、国内外からいつでも問い合わせができるシステムをホームページ上に設置。どんな立場の人々に話を聞きたいのか、どんな絵を撮りたいのか…などの情報をきめ細かくヒアリングし、取材や報道が円滑に進むようにサポートしています。

## 取材協力の事例

**FOCUS Online(ドイツ) マルテ・アルンスベルガー編集者兼記者**

社会問題や政治などに関する世界中のニュースを取り上げているドイツ最大のオンライン・ニュースサイト「FOCUS Online」から、「世界でも最も安全な国の一である日本の交番システムについて取材をしたい」という相談を受け、取材をアレンジしました。都市部のいくつかの交番を取材した結果、「日本における警察戦略の核心シリーズ」として大きく報道され、全国に点在する交番や駐在所がいかに国民の安全維持に貢献しているか、近隣住民との積極的な接触が日本の交番システムのどれほど重要な要素であるかが取り上げられました。

**人民日報(中国) 劉 軍國 東京支局長**

中国を代表する新聞「人民日報」の東京支局長から、日本の雨水利用をテーマに取材したいという相談を受け、雨水活用先進地として知られる墨田区の取材や雨水利用の専門家へのインタビューに協力しました。同紙に掲載された「東京:日常生活に浸透する雨水利用」と題した記事は、墨田区では庁舎、学校、ホテル、路地裏など様々な場所に雨水利用設備を設置することで、限りある水資源を有効活用し、非常時には防火用水や飲料水として利用できるよう取り組んでいると報じました。また雨水の貯留や地下浸透が、ゲリラ豪雨による浸水など「都市型水害」の被害を軽減することにも役立っていることが紹介されました。

# 05 FPCJのノウハウを提供 日本から海外への情報発信を支援



外国メディアに伝えたいことがあるけれど、どうすればいいか分からない…。FPCJではそんな悩みにお応えするべく、日本国内の自治体、大学、企業(非営利分野)などに対し、海外への情報発信のお手伝いをしています。FPCJが長年蓄積した独自のノウハウやネットワークを活かしたメニューをご用意しています。外国メディアを対象とした〈プレスリリースの配信/FPCJウェブサイトへの掲載〉、首都圏での外国メディア向けのイベント開催を支援する〈プレスイベント・サポート〉など、目的に合わせてサービスをお選びいただけます。

## 情報発信支援の事例

**富山県のアンテナショップ(都内)で工芸や食の魅力を発信するイベントを支援**

富山県のアンテナショップ「日本橋とやま館」で、同県主催による外国メディアと大使館関係者を対象とした昼食懇談会が行われ、FPCJはその企画・運営をサポートしました。富山が誇る工芸・デザインの海外への発信を目的に、富山県総合デザインセンター所長のプレゼンテーションや地元を代表する鋳物と漆器の職人による技のデモンストレーションが行われたほか、富山湾の新鮮な海産物をはじめとした県産食材を使った料理が提供されました。東京にいながらにして富山の魅力を味わえるこのイベントには、14か国・地域のメディア、大使館からの参加がありました。

**国際食品工業展で日本の食品製造加工技術を取材するイベントを支援**

「FOOMA JAPAN」(国際食品工業展／(一社)日本食品機械工業会主催)は、毎年国内外から10万人規模の来場者を集める、「食の技術」に関するアジア最大級のトレードショーです。FPCJは、会場である東京ビッグサイトに在京外国メディアを招く取材イベントの企画・運営を支援しました。日本の食品製造加工機械の最先端テクノロジーに触れ、出展者へのインタビューや撮影など充実した取材ができるこの機会に、欧州やアジアのメディアの記者が参加しました。

## 活動支援のお願い

# 賛助会のご案内

年会費 一口 20万円 (ご入会月から1年間有効)

FPCJが行っている、外国メディアへの取材協力や日本からの情報発信活動にご賛同・ご支援いただける皆様(団体)を対象に、賛助会員を募集しています。当センターの主催する各種イベントへのご参加、サービスご利用料金の割引など、様々な特典をご用意しております。

### 主な賛助会員の特典

※その他詳細は、お問い合わせください。

当センターが主催する外国メディアを対象としたプレス・ブリーフィングへのオブザーバーとしての参加

在日外国メディアを対象としたプレスツアーの企画運営、プレスイベント・サポート、プレスリリースの配信／掲載サービス等のご利用料金の割引

当センターウェブサイトを通じた会員の情報発信

当センターが主催するシンポジウム・セミナー、外国メディアとの懇親会への参加

### 寄附金控除について

当センターは、公益財団法人としての認定(2011年4月1日)を受けておりますので、賛助会員につきましては、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、法人税の控除が受けられます。また、その他のご寄附に関しましても、法人税のほか、個人の場合は所得税控除の対象となります。

詳しくは、国税庁HP「公益社団法人等に寄附をしたとき」をご参照ください。

国税庁 公益社団法人 寄附 検索

<https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/taxanswer/shotoku/1266.htm>

### お問い合わせ窓口

#### 公益財団法人フォーリン・プレスセンター 広報戦略課

TEL 03-3501-5251 FAX 03-3501-3622 E-MAIL sc@fpcjpn.or.jp

活動支援の詳細はホームページでもご覧いただけます。

FPCJ 活動支援

検索



#### 公益財団法人 フォーリン・プレスセンター

〒100-0011  
東京都千代田区内幸町2-2-1  
日本プレスセンタービル6階  
Tel: 03-3501-3401(代表) Fax: 03-3501-3622

FPCJ

検索

<https://fpcj.jp>

FPCJapan

@fpcjpn



フォーリン・プレスセンター  
(日本プレスセンタービル6F)



東京メトロ日比谷線、丸ノ内線、千代田線: 霞ヶ関駅 C4・B2出口  
 都営三田線: 内幸町駅 A6・A7出口